

平成27年4月30日

各位

会社名 三洋化成工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 安藤 孝夫
 (コード番号 4471 東証1部)
 問合せ先 広報部長 中嶋 信策
 (電話番号 075-541-4312)

第9次中期経営計画について

Sanyo Global Innovation 200

三洋化成工業株式会社(本社:京都市東山区、社長:安藤孝夫)では、当社グループの新たな経営目標と将来に向けた進むべき方針「第9次中期経営計画」を策定いたしましたので報告申し上げます。

当社グループでは、お客様とともに価値ある製品を創出し、グローバル市場で成長することで、名実ともに大企業へ発展していくことを長期的な目標に掲げております。この目標達成に繋げるべく、2015年度から2018年度の4年間の期間とする第9次中期経営計画を策定いたしました。本計画では、“Sanyo Global Innovation 200”のスローガンのもと、“グローバル化とイノベーション”をキーワードに最終年度である2018年度までに連結売上高2,300億円以上、連結営業利益200億円以上、ROE10%以上の達成を目指してまいります。

第9次中期経営計画期間では、市場規模が大きい事業分野でプロセス革新や積極投資による拡大を目指す基盤4事業と、グローバルにニッチ市場で活躍する高付加価値製品群の両輪で成長を牽引してまいります。加えて、今後、市場の成長が期待される分野(エネルギー・エレクトロニクス分野、バイオ・メディカル分野)での新規事業の橋頭堡を築いてまいります。

また、CSR経営推進による企業価値向上を目指し、当社独自の経営システムである「“人”中心の経営」の深化とそのグローバル展開を図るとともに、コーポレート・ガバナンスの強化や企業ブランド力の向上に注力してまいります。



基盤4事業 : SAP事業、潤滑油添加剤事業、画像形成材料事業、AOA事業

主な高付加価値製品群:自動車内装表皮材用ウレタンビーズ、永久帯電防止剤、フラットパネルディスプレイ用樹脂

SAP・・・高吸水性樹脂(Superabsorbent Polymers)の略で、自重の数百倍から1000倍の水を吸収し、多少の圧力をかけても吸った水を離しません。紙おむつなどに使用されます。

AOA・・・アルキレンオキシドアダクトの略で、親油性のPO(プロピレンオキシド)または親水性のEO(エチレンオキシド)を原料にして作られる製品群。自動車シートクッションなどに使われるポリウレタンフォーム用原料(PPG)や洗剤などに使われる界面活性剤などが代表例です。

【第9次中期経営計画の概要】

1. 基本目標

第9次中期経営計画期間では、お客様とともに価値ある製品を創出し、グローバル市場で成長することで、連結売上高 2,300 億円以上、連結営業利益 200 億円以上、ROE10%以上の達成を目指してまいります。

そのため、当社の強みが発揮できるニッチな市場・分野でのニーズ取り込みを強化する Marketing Innovation や、プロセス革新を通じて生産効率と収益性を向上させる Production Innovation により、既存事業を強化します。また、R&D Innovation による研究効率向上を通じ、成長分野（エネルギー・エレクトロニクス分野、バイオ・メディカル分野）における独創的な技術を創製し、新規事業の橋頭堡を築いてまいります。

1. 1 経営目標（連結）

	2014 年度	2018 年度 (計画)	増 減	年平均伸び率
売上高	1,670 億円	2,300 億円	+629 億円	8.4%
営業利益	89 億円	215 億円	+125 億円	24.7%
ROE	5.6%	10.1%	+4.5point	—

1. 2 基盤4事業およびその他の高付加価値製品群別目標

(1) 売上高目標

	2014 年度	2018 年度 (計画)	増 減	年平均伸び率
基盤4事業	1,193 億円	1,630 億円	+436 億円	8.1%
高付加価値製品群	476 億円	670 億円	+193 億円	9.0%
合 計	1,670 億円	2,300 億円	+629 億円	8.4%

(2) 営業利益目標

	2014 年度	2018 年度 (計画)	増 減	年平均伸び率
基盤4事業	42 億円	110 億円	+67 億円	27.1%
高付加価値製品群	46 億円	105 億円	+58 億円	22.2%
合 計	89 億円	215 億円	+125 億円	24.7%

1. 3 事業別戦略

(1) 基盤4事業

①SAP 事業

既存の日本、中国に加え、新たに ASEAN 地域に生産拠点を設置し、さらなるグローバル供給体制を構築、成長市場での高シェア獲得につなげる。

②潤滑油添加剤事業

日本、中国、米国に加え、新たに ASEAN 地域に生産拠点を設置し、市場ニーズに即応できるグローバル供給体制を構築。成長市場での高シェア獲得につなげる。

③画像形成材料事業

お客様との協創による製品開発を強化し、グローバルに拡販を進めることで、事業拡大と収益性拡大を両立する。

④AOA 事業

プロセス革新とコスト競争力強化を推進し、グローバルに拡販を進めることで、事業拡大と収益性拡大を両立する。

(2) 高付加価値製品群

グローバル市場におけるニッチ領域で市場ニーズに合わせた開発・拡販を推進し、収益の拡大を図る。

1. 4 セグメント別目標

(1) 売上高目標

	2014年度	2018年度 (計画)	増減	年平均伸び率
生活・健康産業関連	647億円	945億円	+297億円	10.0%
石油・輸送機産業関連	401億円	550億円	+148億円	8.2%
プラスチック・繊維産業関連	212億円	275億円	+62億円	6.7%
情報・電気電子産業関連	208億円	310億円	+101億円	10.6%
環境・住設産業関連他	199億円	220億円	+20億円	2.1%
合計	1,670億円	2,300億円	+629億円	8.4%

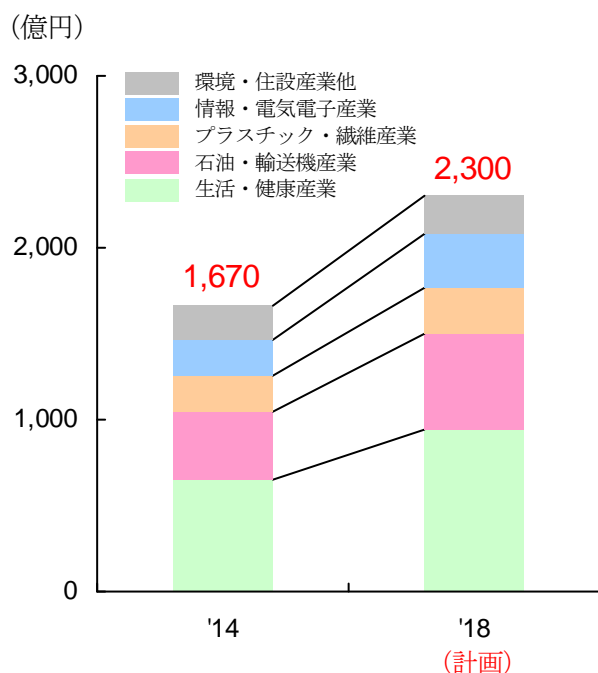
(2) 営業利益目標

	2014年度	2018年度 (計画)	増減	年平均伸び率
生活・健康産業関連	36億円	83億円	+46億円	23.1%
石油・輸送機産業関連	11億円	52億円	+40億円	46.2%
プラスチック・繊維産業関連	23億円	44億円	+20億円	16.9%
情報・電気電子産業関連	12億円	30億円	+17億円	23.9%
環境・住設産業関連他	5億円	6億円	+0億円	4.2%
合計	89億円	215億円	+125億円	24.7%

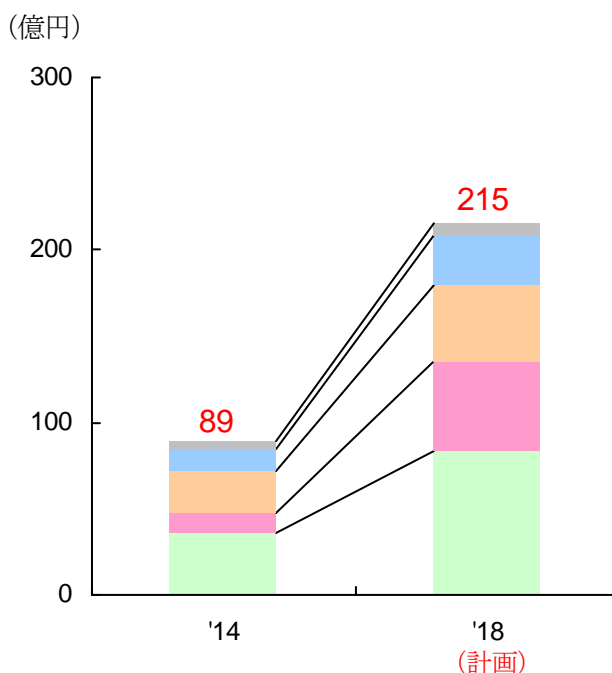
□各セグメントの主な製品

- 生活・健康産業・・・洗剤・洗浄剤用界面活性剤、高吸水性樹脂（SAP）など
- 石油・輸送機産業・・・ポリウレタンフォーム用原料（PPG）、潤滑油添加剤、自動車内装表皮材用ウレタンビーズなど
- プラスチック・繊維産業・・・永久帯電防止剤、繊維製造用薬剤、炭素繊維用薬剤など
- 情報・電気電子産業・・・重合トナー中間体ポリエステルビーズ、トナーバインダーなど
- 環境・住設産業他・・・高分子凝集剤、家具・断熱材用原料（PPG）など

【売上高】



【営業利益】



1. 5 グローバル化の強化（海外売上高比率目標、海外生産高比率目標）

海外生産・販売拠点の拡充、グローバル研究開発体制の構築を図り、海外売上高比率 50%以上、海外生産高比率 30%以上を目指してまいります。

（1）売上高目標

	2014 年度	2018 年度 (計画)	増 減	年平均伸び率
海外売上高 (海外売上高比率)	679 億円 (40.7%)	1,150 億円 (50.0%)	+470 億円 (+9.3point)	13.7% —
海外生産高 * (海外生産高比率)	365 億円 (23.4%)	790 億円 (34.3%)	+424 億円 (+10.9point)	21.2% —

*生産高には委託生産品を含んでおりません。

2. 設備投資と研究開発費

2. 1 設備投資

既存設備の維持（保守・保安等）に加え、基盤 4 事業を中心にグローバル展開へ向けた設備投資を重点的に行い、4 年間で総額約 560 億円の設備投資を行ってまいります。なお、減価償却費は 4 年間で総額約 440 億円を見込んでおります。

□主な設備投資アイテム

SAP 事業：約 130 億円

ASEAN 地域での新規生産拠点の設置

潤滑油添加剤事業：約 45 億円

中国、米国、ASEAN での新規生産拠点の設置

画像形成薬剤事業：約 20 億円

重合トナー中間体ポリエステルビーズ向け原料生産設備の拡充

AOA 事業：約 5 億円

第 8 次中計期間中に投資・整備してきた衣浦工場における PPG 新製造プロセス生産設備の拡充

2. 2 研究開発費

毎年、連結売上高の 3%以上（単体売上高の 5%以上）、4 年間で総額約 250 億円を投入し、既存事業の利益ある拡大と次世代に向けた独創的技術の創製につなげてまいります。

3. 基本戦略

3. 1 CSR 経営推進による企業価値の向上

- （1）「人」中心の経営の深化とグローバル展開
- （2）コーポレート・ガバナンス体制の強化と企業ブランド力の向上
- （3）社会貢献活動の継続実施

3. 2 研究開発力の強化

- （1）成長分野（エネルギー・エレクトロニクス分野、バイオ・メディカル分野）での新規事業創製
- （2）高付加価値品の継続開発による利益性向上
- （3）ニューシーズ指向開発の深化

3. 3 グローバル化の強化

- （1）海外生産・販売拠点の拡充
- （2）グローバル研究開発体制の構築
- （3）グローバルでの更なる営業力強化
- （4）グローバル購買の推進と海外安価原料の活用強化

3. 4 事業基盤の強化

- (1) 成長が期待される市場への取り組み強化
- (2) プロセス革新等による収益性の向上
- (3) 生産革新の完遂による筋肉質な生産基盤構築
- (4) 事業部制の導入

3. 5 経営効率の向上

- (1) 自主的チャレンジを促す風土・制度の再整備
- (2) 多様な働き方の推進
- (3) 女性の活躍推進
- (4) 経営サポート体制の強化（経営企画室の設置など）

【補足】 「人」中心の経営」について

「人」中心の経営」は、人（従業員）一人ひとりが会社とともに成長し、働きがいや幸せを実現するために、自ら会社の制度や手段を使って課題にチャレンジすることを促進する経営システム。